

に樹木等が無くなってしまった様子に驚いていました。



熱心にメモをとる児童

アルゼンチンであることなどに驚いたなどの意見がありました。

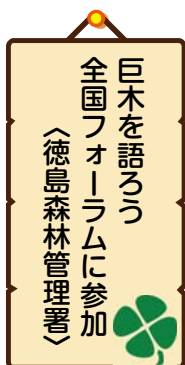


児童手製の樹木名板

次に校庭へ移動し、三班に分かれ、校内に植えられている樹木の名前、科名、特徴について学習しました。児童は当センターが用意した紙にメモを取りながら「この木知っている」「この木おじいちゃんちにあった」などと言いながら学習していました。

最後に教室へもどり質問と感想を聞きました。今まで何となく見ていた学校の樹木が何十種類もあることや、ヤタイヤシの原産国が

今回学習した樹木名は次の総合学習の時間に、ヒノキ輪切りプレートへ一人一人が、木の名前、科名、自分の名前を書きそれぞれのイラストを添えて取り付けることにしています。



五月二十九日～三十一日、徳島県つるぎ町で第二三回巨木を語ろう全国フォーラムが開催されました。

同フォーラムは、巨樹の価値を再認識するために活動している全国巨樹・巨木林の会と市町村の共催で、毎年、持ち回りで開催され、森林管理局や文化庁、環境省なども後援している行事です。

徳島森林管理署では、巨樹巡りツアーの中に国有林が組み込まれていることもあって、国有林野事業の普及啓発に絶好の機会と考え、同フォーラムに積極的に参加しました。



巨樹巡りツアーの様子

一日目は、巨樹巡りツアーが四コースで実施されましたが、そのうちの津志嶽シャクナゲ群落地は、当署が管理している久敷国有林にあります。久敷国有林は、高齢級の天然林ですが、シャクナゲの古木が多いことで知られており、地元からも保護の要望があるところ

です。当署でも、事前に下見や歩道の改修などを行ってきましたが、当日は、全国各地から来訪した約二百名が、片道三時間の登山道をたどり、ちょうど見頃のシャクナゲと対面することができました。

二日目は、約六〇〇人が参加して自然と人との共生をテーマにフォーラムが開催され、当署から署長が来賓として出席しました。

フォーラムの事例報告では、流域管理調整官が「津志嶽のシャクナゲ群落」に

ついて、パワーポイントを用いて紹介を行いました。また、フォーラム会場には、地球温暖化や森林の働き、林業・木材産業の重要性を解説したパネルを展示しました。

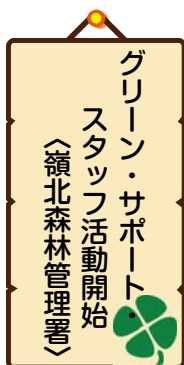
さらに、屋外ステージの脇で、当署職員の指導による木工教室を開催し、約三〇名の児童が小枝の輪切りを組み合わせて、オリジナルのクマやパンダなどの顔を作り、できあがった作品を見せ合って楽しげな歓声を上げていました。



クマさん、上手にできたかな。

今回のフォーラムは、三日間で全国各地から延べ約一、五〇〇人が訪れ、巨樹巨木の魅力を堪能したようです。

当署では、流域管理推進アクションプログラムや森林環境教育活動推進に関する行動計画に基づいて、様々な取り組みを進めているところですが、今後とも、このような機会を捉えて、森林・林業の普及啓発や森林環境教育の推進に取り組んでいきたいと考えています。



四月二十八日、昨年度に引き続き森林保護員（愛称：グリーン・サポート・スタッフ）三名により、工石山自然休養林等の巡視・登山者の利用マナーの指導及び

普及啓発活動等を行う地域連携推進等対策事業を開始しました。

当日は、森林法や鳥獣保護等に関する法令や、植生荒廃や不法投棄を行う入込者への対応など業務に関する基本的な知識の習得を目的とした講習を行ない、その後、工石山において本年度初めての林野巡視を行うとともに災害発生等を想定した緊急連絡の訓練を実施しました。

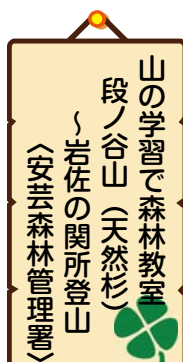


緊急訓練中（グリーン・サポート・スタッフ）

この日の工石山は天候にも恵まれ、見頃となってい

るアケボノツツジ、トサノミツバツツジなどを楽しむ登山者がいましたが、さらに、これから初夏にかけてはシヤクナゲ、ヒメシヤラなどの花期を迎えることから、なお一層、登山を楽しまれる方が多くなってきました。

当署では、これから一年間、グリーン・サポート・スタッフらと共にきめ細かな保全活動を行い、レクリエーションの森「工石山」をより大勢の皆様に安全に、安心して利用していただけるよう努めていきたいと考えています。たくさんの方のご利用をお待ちしています。



五月二十一日、佐喜浜町地域住民（先生、小学生、

父兄）約六十名を対象に、地域に残る自然や歴史を探究するために森林教室を行いました。

段の谷山登山口から出発し、すぐに山の合唱団のさえずりで歓迎を受け、参加者は大喜びでした。「表現豊かな天然杉ガイドマップ」に記載している大杉の近くで森の働きなどについて森林教室を行いました。

子供達は、大杉の大きさ、仁王杉の根元の空洞の大きさなどにビックリ、目を輝かせていました。



仁王杉の空洞に何名入ってるかな。

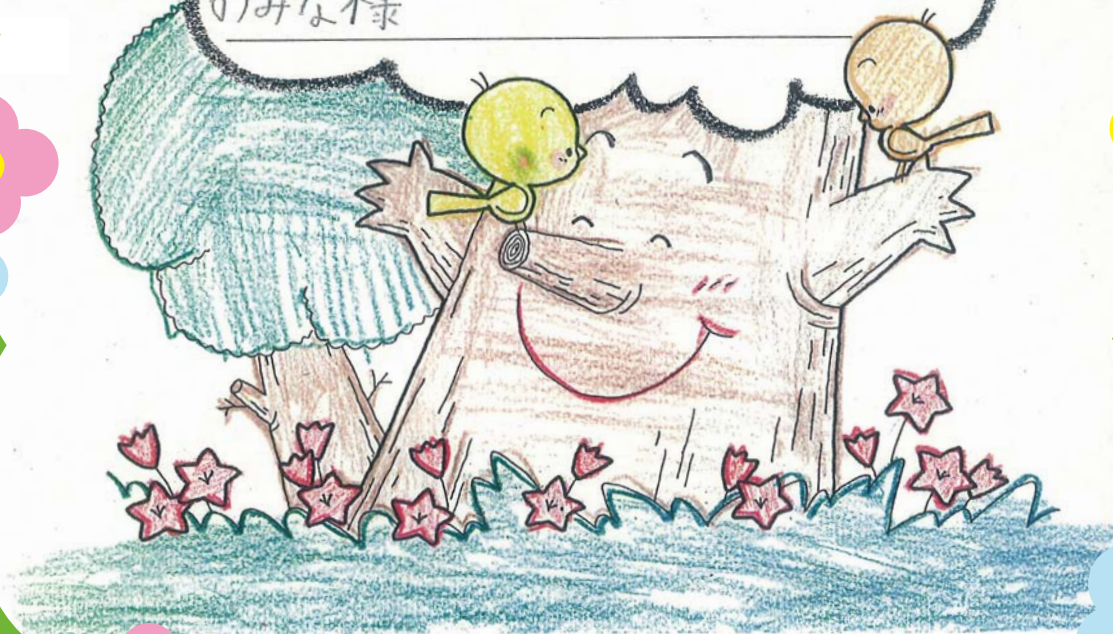
天然杉を歩道沿いに見ながら野根山街道に合流し、野根山街道の史跡については、地域の方から話を聞きました。野根山街道を歩きながら森のすばらしさを体で感じ、全員無事に帰りました。



岩佐の関所について学習の様子

今回のこのような、地域が一体となったイベント等について、当署としても積極的に参加し、森林・林業及び国有林のPRに努めて参りたいと思います。

安芸森林管理署のみなさんお元気ですか。
ぼくは佐喜浜小学校四年の高田倫希です。
先日は山の学習でいろいろなことを教えていただき、ありがとうございました。自然はすごいと思いました。木はつくえ、えんぴつとかに使われているのにおどろきました。また33本の杉の26本見つけて、うれしかったです。一番おどろいた杉は「矢木」です。佐喜浜にこんな所があるなんて、初めて知りました。管理署の方の話を聞いて、山はこんなにすごいんだなと思いました。話を聞いてとても勉強になりました。これからもお体に気をつけてお仕事をがんばってください。さようなら
平成二十二年五月二十四日、佐喜浜小学校四年高田倫希、安芸森林管理署のみな様



千本山の
巨大スギ観察の旅
(安芸森林管理署)



「NPO法人自然と緑」企画で二八名の方が千本山（展望台）を登山されました。
参加された方の体験感想文を紹介します。

五月二五日、二六日、「N

P O 法人自然と緑」企画、
『渡辺弘之教授と行く、高
知・千本山』を実施しまし
た。初の平日企画だったた
め、どれだけ参加者がある
か心配でしたが、渡辺先生
の人氣と、“はちまき落と
し”と言われる巨大スギの
魅力は偉大でした。定員二
八名であつたりと満杯、そ
のあと、何名かの理事が涙
を飲みました。私もヒヤヒ
ヤしながら経緯を見守って
いましたが、なんとか滑り
込みセーフ。行ってよかつ
た…。素晴らしいスギ群で
した。

二六日、天気は晴天、さ
すが晴オトコで有名な、我
が自然大学学長の只木良
也先生にご同行いただいた

だけのことはあります。早
朝から安芸森林管理署の流
域管理調整官、大原国夫さ
んをはじめとして稲垣孝
西川森林事務所森林官、川
邊 亜紀さん、田中 梓さん
の四人の署員の方たちに御
案内いただき、ドキドキす
るような細い道をバスで山
の奥へ、奥へと入り千本山
の登り口にたどりつしまし
た。

道中、鮮やかな新緑に目
を洗われました。前々日に
四五〇mmを超える大雨が降
ったあとで、おそらくは普
段はそれほどでもないであ
ろうと思われる流れも、思
わず声をあげずにいられな
いくらいのみごとな滝とな
って流れ落ちており、私た
ちの興奮は増すばかりです。

大原さんから「みなさん、
こんなことで興奮したら
血圧が上がってたいへんで
すよ。」と注意されるありさ
までした。

登り口から吊り橋を渡つ
た私たちを森の巨人たち
「100選に選ばれた「千本山
橋の大杉」が迎えしてくれ
ます。胸高直径二・一二m、
樹高五四・二mの大きさに
圧倒されました。そこから
は整備された木道がほどよ
い勾配で設置されており、
直登なのに楽に登っていけ
るよう配慮されていました。
なにより、大原さんの適切
な小休止を兼ねた説明が楽
しく、登りも苦になりませ
んでした。

これまで見た中で最大の
サカキ、人が楽に通る抜け

られるほどの穴があいた杉
の巨木など、すべてに驚き
目を見張りました。もちろ
ん、首が痛くなるほど上を
むきっぱなしです。残念な
がら鉢巻きは落ちませんで
したが（試してみました。）
寡黙な巨人たちにかこまれ
興奮しているのにどこかし
んとしたような不思議な気
持ちになりました。この山
を守ってこられた魚梁瀬の
人々、森林管理署のみなさ
まに拍手を送りたい、そん
な思いでいっぱいだったの
は、私だけではないはずで
す。

大原さん、他のみなさん、
楽しく驚きに満ちた一日を
ありがとうございました。

千本山のような見事な山が
あるかぎり、日本の森林も

まだまだ大丈夫。たいへん
なお仕事ですがこれからも
がんばってこの山を、杉の
巨人たちを守ってください。
またぜひお会いできますよ
うに。

NPO法人自然と緑

福田淳子



千本山登山の様子

